



いなほ



令和4年3月14日
令和3年度学校だよりNO.55③
加古川市立平荘小学校

第21回狂言発表会を頑張りました（6年生）

3月10日（木）に、第21回狂言発表会を行いました。6年生の子どもたちは、リハーサルのふり返りをもとに、チームワークを意識し、みんなで一つの表現になるようにと、演技をつないできました。子どもたちの言葉をかきると、『一致団結』です。そして、演技の技術面では、『骨組みから肉付けへ』を意識して練習をしてきています。自分たちの思いを、役を演じながら表現することです。そして、何よりも、「やらされる自分」から「やる自分」への意識の転換を行ってきました。

当日の最終リハーサルを終えて、山口耕道先生は、「子どもたちが変わりましたね。やらされ感がなくなりました。子どもたちは、自分の意志で演じていますね。」と言われました。うれしい言葉です。



6年生の子どもたちは、観客に自分たちの思いが届くようにと、頑張りました。本番では、今までの練習の成果が発揮できました。



6年生のみなさんへ

本番は1回しかありません。上手くいったことや上手くいかなかったことがあったと思います。(あーっ、こうすればよかった。)と反省点もあると思います。失敗して、消しゴムがあったら消したい思いもいい経験なのです。上手くいかなかったことを、消しゴムで消さないでほしいです。その経験が積み重なっていき、必ず(上手くいかなかった経験が)自分を助けてくれます。いろんな失敗を忘れようと思わないように、よくないことを溜め込むことはしんどいことです。しかし、そのよくないことを心の内に記憶させることで、次からは気をつけようと、自分を助けてくれます。それが、強さになるのです。強いから持ち続けることができるのです。よきことも悪しきことも心の内に記憶させてください。それを伝えたかったのです。

毎年、同じセリフを演じていますが、毎年少しずつ違った狂言になっておもしろいです。

狂言は650年の時を経て、今に伝えられています。今を生きている私たちが、思いを込めて演じているのです。その時その時の狂言は、その年々の思いが込められています。

過去から繰り返し繰り返し演じ続けられてきたのです。

今年の6年生には、セリフをいう時に、「どこに向かって言っているのか。」「観に来てくださる人たちに届けよう。」「自分の思いを精一杯表現しよう。」「観てくださっている人達からは何か(演技者に)返ってくる。それを、経験してほしい。」と話してきました。

時が時なら、無観客かもしれませんが、コロナ禍の中、こんなにたくさんの方々に来ていただいて、本当にありがとうございます。

今日は、目標通りに、観客に届けることができましたか?アクシデントに対してはどうでしたか?みなさんは、4か月間練習をしてきました。2月28日のリハーサルではどうなることかと思いましたが、いい発表になりました。